

# 火災発生十一件

## 原因のトップは子供の火遊び

### 日光市消防統計から

昭和五十四年の日光市消防統計がこのほどまとまりました。それによりますと、火災発生件数は十二件で、昭和五十二年の十一件に次ぐ少ない記録になりました。

その内訳は、建物六件、林野三件、原野一件、その他二件。火災による焼失面積は、建物一三平方メートル、林野三・五ヘクタール、原野三アール。損害額は三百四十七万九千円で、一件当たり約二十九万九千円、全国平均が百八十万円ですから、いかに日光市の損害額が低いかわかります。これは、初期消火が成功しているあらわれです。

火災原因は、子供の火遊び、たばこの投げ捨て、たき火の不始末、火気取り扱い不注意の順です。ここ数年、日光市の火災原因は、たばこ、たき火、子供の火遊びの順でしたが、昨年は順位が入れかわりました。

火災は、アツという間に私たちの生活の場を焼きつくし、最悪の場合には、尊い生命まで奪ってしまいます。さて、その火災が不幸にも発生したときは、早い通報が一番大切です。各自ができる初期消火には限界があります。通報が

早ければ全焼はもちろん、大火になることはまずありません。

### 救急車の出動は

#### 五百四十三件

昭和五十四年の救急車出動件数は五百四十三件で、前年より八十九件増えています。

これを事故別で見ますと、①急病人百八十九件、②交通事故百十三件、③一般負傷者七十四件、④その他六十三件、⑤労働災害事故

七件、⑥運動競技事故六件、⑦加害五件、⑧自損行為四件の順になっています。

搬送人員は、昨年より九十五人多い五百二十一人でした。そのうち市内の方は二百一十一人で、五九・五%にあたる三百十人が外来者ということは、観光地日光の特色をよくあらわしています。

交通事故で特に目立った点は、市民の負傷者が前年より十五人増の四十四人になったことです。お互いに交通ルールを正しく守り、安全運転を励行しましょう。

### 暮らしの中の火災原因 くれぐれもご用心を

すべてを灰にしてしまう火災。



この原因の七、八割はちよつとした不注意からなのです。いふなれば、日々の生活の中に「出火原因」は無数にころがっているといえましょう。お風呂の消し忘れ、こたつやアイロン、ドライヤーなど電気器具のつけっぱなし、たばこの火の不始末、石油ス

トープを点火したままの給油、ベッジン、スプレーなどの火気への接近など、数えあげたらきりがなほほどです。

特に、いたずら盛りの幼い子供がいる家庭では「火遊び」にも十分注意してください。

幼い子供にとっては、マッチやライターのパツとした炎はひとつの「魅力」としてうつるようです。お母さんが家事に追われているときなど、こたつの上にマッチやライターが置いてあると、子供はつい「日ごろの夢」をかなえたくなつて、いたずらする場合があります。まずから気をつけましょう。

マッチやライターなど、火の元になるものは、ふだんから子供の手の届くところには絶対置かないように注意しましょう。

特に二月は、空気が非常に乾燥していて強い風が吹くことも多く、そのうえ暖房器具を使う時期でもあります。ありがたかないことに二月はまさに三拍子そろつた「火災シーズン」といえるでしょう。二月二十九日から春の全国火災予防運動が行われます。火の元にはくれぐれもご注意ください。

### 春の全国 火災予防運動

2月29日から  
3月13日まで

### 冬の運転は スリップ事故に注意



冬の間は、車の整備や点検を怠りがちですが、危険なスリップ事故をなくすため、ハンドルやブレーキなどに異常がないか、タイヤのへりくあいはどうかなどの確認を忘れてはなりません。凍結した道路や雪道などは、急ブレーキをかけないですむような速度で車間距離を十分とって運転しましょう。チェーンやスノータイヤはどうしても必要ですが、これをつけても安心はできません。まわりの状況に応じた安全な速度で運転しましょう。